

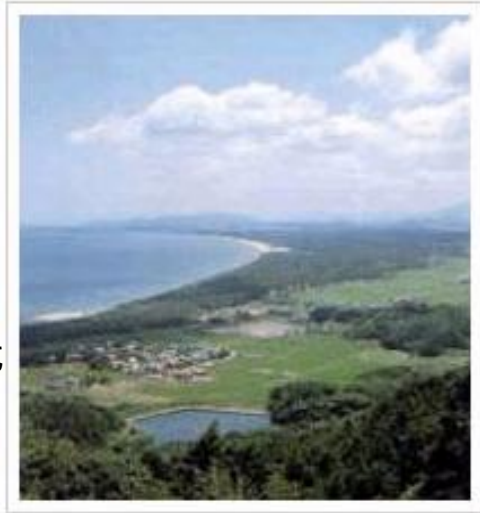
三里松原の歴史 ～岡垣町史より～

三里松原は、町の北面、海岸線に沿った砂丘上に形成された白砂青松の松原で、現在福岡森林管理署が管轄する国有林です。

三里松原の名称は、延長が12kmに及ぶところから名付けられたもので、地元では「浜山」「下山」とも呼んでいる。また、古くは筑前五所松原の一つとして、「岡の松原」「垣崎松原」とも呼ばれていました。

現在の三里松原が形成されたのは、江戸時代・黒田藩の統治下であり、砂防のための松植立事業が進められた18世紀頃とされています。

先人たちは、三里松原の大規模開墾計画による払い下げ反対や米軍の対地射爆場への抵抗を示し、血と汗によりこの松原を守り抜いてきました。



三里松原の歴史		
西暦	年号	出来事
1655	明暦1	この年から25年にわたり三里松原の植林が行われる
1738	元文3	浜辺の松植立て、浜山証文にて浜松の伐採を禁止
1750	寛延3	芦屋から手野・内浦辺までの砂山71万7千坪に、7年間に松の植立てをするよう申し付けられる。
1752	宝暦2	浜山松植立て始まり、同8年まで続く
1754	宝暦4	芦屋浜山植立奉行権藤伊右衛門、糠塚・黒山・松原・芦屋の4か村に浜山植立てを命じる
1760	宝暦10	浜山松植立てで植えつかない松の補植に、年間2,300人出夫
1893	明治26	松原を通り芦屋に通じる浜山道路工事に着手
1897	明治30	三里松原を国有林に編入、防風保安林となる
1927	昭和2	波津海水浴場開設、県行造林の開始で林野統一行われる
1945	昭和20	八幡市、三里松原に大規模開墾を計画、払い下げの同意を求める。
1946	昭和21	三里松原開墾計画払い下げ阻止に成功 米軍、対地射爆撃場開設
1951	昭和26	米軍、防風保安林を広範囲に伐採し射爆撃場を整備拡張 村内の海岸線一帯、玄海県立公園に指定
1952	昭和27	日米行政協定に基づく施設・区域協定の調印、芦屋飛行場の射爆撃場が米軍施設として存続決定
1956	昭和31	村内の海岸線一帯、玄海国定公園に編入
1961	昭和36	射爆場、芦屋飛行場から分離して芦屋対地射爆撃場となる
1972	昭和47	射爆場、日本に返還
1978	昭和53	岡垣対地射爆撃場、自衛隊より返還
1987	昭和62	三里松原、全国白砂青松百選に選ばれる